

### (C) ChemStation データ解析

共通2. 同じクロマトグラム内の、あるピークとの面積比をレポートできますか？

クラシックレポートでは、ISTD計算を利用します。

比較元の基準ピークと、目的ピークのキャリブレーションテーブルを作ります。

この時、キャリブレーションテーブルで、

- ①基準ピークのアマウントを1に設定します。
- ②目的ピークのアマウントを1に設定します。

#	化合物名	レベル	アマウント[ng/ul]	面積	リファレンス	ISTD	#
1	dimethylphthalate	1	10.000	2.741	いいえ	いいえ	
2	diethylphthalate	1	10.000	2.528	いいえ	いいえ	
3	biphenyl	1	8.000	2.874	いいえ	はい	
4	o-terphenyl	1	3.000	4.098	いいえ	いいえ	

このピークを目的にするならここ

このピークを基準にするならここ

- ③基準ピークをISTDを「はい」に設定して、このISTDアマウントも1に設定します。

キャリブレーション テーブル: 機器 1

ISTD #: 1

サンプル デフォルト

ISTD アマウント: 1

OK キャンセル ヘルプ

ここを1にする

キャリブレーションテーブルでISTDを「はい」にするとこの画面が出ます

### (C) ChemStation データ解析

共通2. 同じクロマトグラム内の、あるピークとの面積比をレポートできますか？

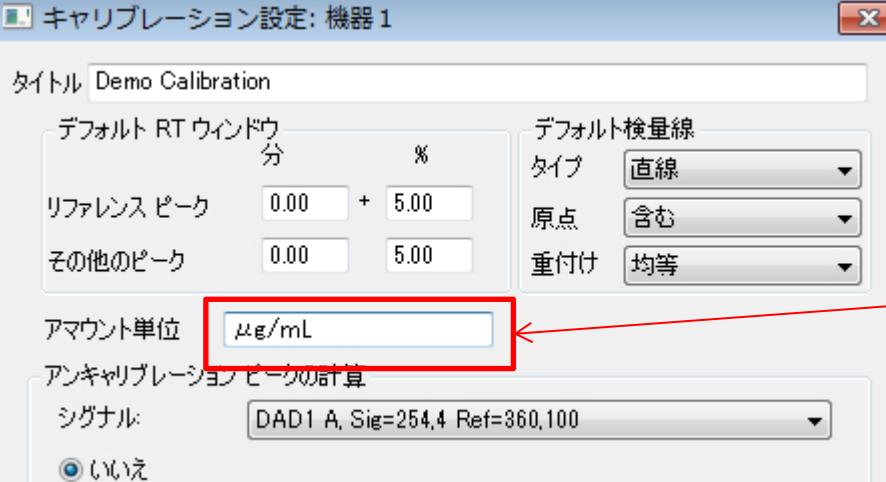
④メニューから、[キャリブレーションテーブルオプション]→[マニュアル設定]を選択します(キャリブレーションテーブルの表示が変わります)。

⑤基準ピークと目的ピークの両方について、レスポンスファクタを1に設定します。



#	RT	シグナル	化合物名	レスポンスファクタ
1	0.450	DAD1 B	A	1
2	0.590	DAD1 B	B	1
3	1.974	DAD1 B	C	1

⑥キャリブレーションの設定で、表示単位を「面積比」など適当に変更します。



タイトル Demo Calibration

デフォルト RT ウィンドウ  
分                      %  
リファレンス ピーク    0.00 + 5.00  
その他のピーク        0.00    5.00

デフォルト検量線  
タイプ    直線  
原点      含む  
重付け    均等

アmount単位    μg/mL

アンキャリブレーションピークの計算  
シグナル:    DAD1 A, Sig=254,4 Ref=360,100

いいえ

## (C) ChemStation データ解析

共通2. 同じクロマトグラム内の、あるピークとの面積比をレポートできますか？

⑦[レポート条件]の定量設定タブで、ISTD法による計算を選択します。

レポート条件: 機器 1

レポート設定 定量設定

計算モード

計算: ESTD カウント法: 面積

ISTD 補正

ISTD (に対し倍率と希釈率ファクタを使用(U))

計算ファクタ

使用するサンプルデータ: データファイルから

アマウント: 0

倍率: 1

希釈率: 1

#	化合物	ISTD アマウント
---	-----	------------

OK キャンセル ヘルプ

ここをISTDにする